

2021年11月8日
西日本電信電話株式会社

高野山のオーバーツーリズム解消！ AI車両認証システムを活用した渋滞緩和プロジェクトの実証実験がスタート

西日本電信電話株式会社 和歌山支店（支店長：土元 章弘）は、高野町での深刻な交通渋滞という地域課題に対して、AI車両認証システムを活用し、渋滞状況の把握・緩和対策が可能か実証実験をスタートいたします。

併せて、産官学連携※で取り組んでいる、観光ビッグデータ分析プロジェクトにおいて、本データを活用し、新たな観光モデル確立に向けた仕組みづくりを推進いたします。

※産官学連携…高野町、株式会社紀陽銀行、南海電気鉄道株式会社、NTTタウンページ株式会社、
国立大学法人和歌山大学、和歌山県データ利活用推進センターとの産官学連携。

記

1. 背景

観光シーズンにおいては、観光客集中による深刻な交通渋滞等の問題が発生しており、観光掲示板による情報発信や民間交通会社との連携により、車両流入の軽減対策を行っているものの混雑状況(渋滞や駐車場混雑)の把握には至っておらず、混雑緩和に向けた有効な対策まで至っていませんでした。

加えて、新型コロナウイルス感染拡大の影響で外国人宿泊者数が減少するという事態を受け、町の観光収入をインバウンド需要のみに頼るのではなく、新たな観光モデルの確立が急務になったことから、高野山の観光データを活用し、交通渋滞の解消と新たな観光モデルの確立に向けた共同研究を実施する運びとなりました。

2. 内容

丸紅ネットワークソリューションズ株式会社、日本情報通信株式会社、株式会社NTTフィールドテクノと連携し車両認証システムを構築します。道路上の3カ所にAI映像分析カメラを設置し、車両ごとの通過時間を記録しクラウド上に集約します。通過時間の差からラップタイムを計測することで、渋滞の発生状況が把握可能か検証いたします。

(検証期間：2021/10/1～2021/11/30)

<各社の役割>

■西日本電信電話株式会社

全体プロジェクト管理・外部調整

■丸紅ネットワークソリューションズ株式会社

車両認証システムの構築

■日本情報通信株式会社

データ蓄積・分析クラウド環境および渋滞情報発信システムの構築

■株式会社 NTT フィールドテクノ

電源工事およびカメラ設置工事

3. 今後の展望

今後の展望としては、この共同研究で得られる定量データを踏まえ、渋滞解消はもちろんのこと、高野町を訪れた車両の「統計データ」を取得することで、リピーター率に応じた施策や訪問元エリア別の観光プロモーション施策等に活用いたします。

将来的には、ポストコロナを意識した外国人観光客の更なる誘致や、高野町ならではの瞑想／ヘルスツーリズム／ワーケーション体験といった新たな観光モデルを確立し、関係人口を拡大させることで、持続可能な観光地をめざします。

以上

審査 21-812-1